

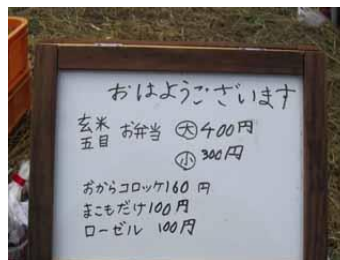
光陽の里だより

収穫祭でなにが

どうした……？

10月30日恒例の収穫祭が行われた。幸いなことに昨年のように雨に悩まされることもなく、楽しい収穫祭だった。肝心の野菜の出品だが、今年はサツマイモにおいては「ベニハルカ」という昨年の人気品種はなく（猪の所為？）安納芋、安納紅葉と毛色の変った品種にお目にかかった。会員の意識の高さが出品物の中に垣間見られた。お弁当に「発酵玄米」で、マコモダケの天ぷらがおかずだったり、「発酵玄米って？」

「発酵玄米って、作ってから1週間後くらいが食べ頃、作ったばかりはばさばさしてるけど、1週間くらい経つともちもちしてくる。吃驚するよ」



これがお弁当、おいしい

光陽の里楽農会では野菜の出荷者を募集しています。集荷グループが増え、従来の会員だけでは間に合いきれなくなってきました。希望者は、役員までご連絡を。

松井の一人農業

光陽の里の東南の端で、一人ひとりと農業を始めて、もう何年になるのだろう、畑を借りるときに、老舗所ぼつねんと離れていて、さみしそうだったが、「ここは条件が悪いから借りない、なんてことのない様に……」「分かりました。貸したいと仰った処は全部借ります」と大見得を切った手前、この離れ小島が気になって、借りることにした。今年は簡易耕耘機を新規に購入し、気合いが入っていたのだが、まずサツマイモを猪にヤラレ、しばらくしたら里芋がおかしくなった。根の付近をかじった形跡がある、見回せば、僕の里芋よりも立派で無防備の里芋は一杯ある。僕の成長不足の芋

なんて、様子見だけだろう、と安心していたら、ごっそりとやられた。まあ、布マルチのお米だけは……と思っていたのだが、離れたところで挑戦していた大豆までやられた。

「猪だと思うけど……」と地主さんから電話が入り、「え、猪が大豆をたべるの？」無農薬だから、土中のミミズ狙いかなとも思ったが、土はかき回され、上の大豆を食べた後は分からない。



上でぬたくった後らしいもの分かる。来年は、車中泊で決闘覚悟で再チャレンジ！